

「Eight Days of PFAS in Japan + one」

2026 年 9 月 16 日から 24 日

(一般参加可能 8 日間 + 会員限定 1 日)

「Eight Days of PFAS in Japan + one」プレイベントとして「PerfluoroAD+」と「Smouldering」技術の国内導入のための「**会員限定オンライン商談会**」を開催中です。PFAS 対策世界標準技術を用いた国内ビジネスに、先んじて挑戦したい方は事務局まで。



CAR-PFAS
JAPAN

特徴量解析+PFAS分析に特化した
機械学習アプリケーション+事例開発

TOYOTA

「もしアインシュタインが PFAS 研究を行ったら?」

<https://staff.aist.go.jp/nob.yamashita/image/news2025may16.pdf>

PFAS Total Solutions

<https://unit.aist.go.jp/env-mri/pfasol/>

「Eight Days of PFAS in Japan + one」開催プログラム

1) 地盤技術フォーラム(PFAS 対策ゾーン)

9 月 16 日から 18 日、東京ビッグサイト、一般参加可能、個別相談会など、事前申し込みチケット制

<https://www.sgrte.jp/>

2) CAR-PFAS つくば会議

9 月 19 日から 23 日、つくば市国際会議場/産業技術総合研究所他、一般参加可能、

個別相談会、PFAS 研究機関バスツアーなど、事前申し込みチケット制

SETAC-AP と同一会場で同時開催

<https://www.setac.org/discover-events/global-meetings/setac-asia-pacific-15th-biennial-meeting.html>

3) + one (CAR-PFAS VIP 東京会議)、9 月 24 日、東京都昭島(栗田工業イノベーションハブ) CAR-PFAS 会員限定

各プログラム

地盤技術フォーラム(PFAS 対策ゾーン)

9 月 16 日から 18 日、東京ビッグサイト

a) PFAS 対策ゾーン 出展参加企業 20 以上

CAR-PFAS ブースでは、海外最新技術/コンソーシアム会員の最新技術の紹介と、5 月に開催された「欧州共同体 PFAS 対策国際会議 INCITE」の講演概要をデジタルサイネージで紹介します。残念ながら日本からの参加は PFAS 対策技術コンソーシアムのみでしたが、ECHA 規制案のアップデートから、最新の「SMART-PFAS」までつなげる最新情報を提供します。欧州委員会による産業起源 PFAS 管理技術についての国際会議(スペイン、セビリア、5 月 5,6 日) 3rd INCITE Workshop of Innovative Techniques for the management of PFAS in sectors under the IED)Industrial Emissions Directive(IED)は 2010 年に設置された、全ての産業の環境影響評価に関する欧州横断組織であり、PFAS 対策技術コンソーシアムと連携する欧州組織である ARAGORN と同様に ECHA/REACH/RoHS 等の国際規制の議論を熟成させるための組織です。industry representatives、Technology providers、Financial institutions、Research and Technology Organizations、NGOs、Academia、Member States representatives 等、全ての関係者が European Commission and executive agencies (欧州委員会)の下で、透明性の高い意見交換を行っています。欧州 PFAS 対策は zero pollution、climate neutrality と circular economy の一環として議論されることが常識となっています。

パブコメが出ないと国際議論に参加できない日本の PFAS 対策の遅れを直視する機会ですので、是非ご覧ください。

(<https://innovation-centre-for-industrial-transformation.ec.europa.eu/>)

INCITE 会議プログラムを下記に示します。

Welcome of participants	Jose González Cuenca Coordinator of INCITE – JRC B5
Workshop & INCITE introduction	Eric Aries & Sara Tejedor Scientific Officer – JRC B5
Workshop objectives/context	Nicolas Humez Chairman – Hazardous Waste Europe
Policy Context REACH – Universal Restriction on PFAS	Mercedes Marquez Camacho (online) – Team Leader in Restrictions Opinion Making ECHA
Policy Context PFAS pollution in Europe	Juan Calero – Expert – Industry and the environment EEA
Policy Context	Viviane Andre (online) – Policy Officer C4 Keir McAndrew – Policy Officer-Industrial Emissions & Safety B2 DG ENV Otto Linher (online) – Senior Expert REACH F1 Denis Mottet – Policy Officer REACH F1 DG GROW F1
Coffee Break	
Policy Context	Michael John Bennett – Project Officer JRC D3
Member States (MS) perspectives on PFAS management in products and in emissions	Sandra Leuthold – Technical Officer DE representative Claire Durlin – Technical Research Manager FR representative
Manufacturing and abatement of PFAS	Ronald Bock – Director Governmental Affairs Fluoropolymers Group of Plastics Europe
Lunch followed by a Group Picture in the ‘Expo Building patio’	
Role and potential environmental impact of PFAS in electrolyzers and fuel cells	Darina Blagoeva (online) – Scientific Officer, Battery and Hydrogen Technologies JRC C1
PFAS SUBSTITUTION	
Introduction to substitution of PFAS	Patrick Maestro – Fellow Académie des Technologies
Why is substitution necessary for water quality	Oliver Loebel (online) – Secretary General Eureau
Why is substitution necessary for civil society	Christine Hermann – Policy Officer for Chemicals EEB
Alternatives to PFAS	Jonatan Kleimark (online) – Director of Programmes Chemsec
Discussions & Questions on PFAS substitution	
Coffee Break	
STATE-OF-PLAY ON THE MONITORING OF PFAS EMISSIONS (e.g. to air, water)	
Introduction to detection & monitoring	Xenia Trier – Associate Professor University of Copenhagen
PFAS characterisation: from conventional detection to non-target discovery	Stefan Voorspoels – Head of Department Chemical Characterisation VITO

Introduction to the 2 nd day of the workshop	Jose González Cuenca Coordinator of INCITE – JRC B5
TECHNICAL INNOVATION IN SORPTION/SEPARATION OF PFAS	
Current industrially developed solutions	<u>Gabriel Sigmund</u> – Associate Professor Wageningen University
Membrane Technologies	<u>Tina Arrowood</u> – Global Technology Manager, Growth and Sustainability Dupont
Flocculation and precipitation of PFAS	<u>Helena Hinrichsen</u> – CEO and Partner OPEC/Cornelsen
Coffee Break	
Foam fractioning and other separation technologies	<u>Jake Hurst</u> – Associate Technical Director <u>Jeffrey Burdick</u> – Global Director Restoration ARCADIS
Discussions & Questions on sorption / separation technologies	
TECHNICAL INNOVATION IN DESTRUCTION OF PFAS	
Current industrially developed solutions	<u>Gabriel Sigmund</u> – Associate Professor Wageningen University
Non-thermal plasma technology	<u>Wouter de Weirdt</u> – CEO TECTERO
Super Critical Water Oxidation	<u>Rick Gillespie</u> Revive
Lunch	
Ultraviolet (UV) Technology	<u>John Brockgreitens</u> – VP of Product Development Claros Technologies
Biological technologies in soil and water	<u>Geoffrey Besnier (online)</u> – Co-founder and COO CellX Biosolutions
Sonolysis	<u>Benjamin Lailier</u> – Technical Business Engineer Sinaptec & Poitiers University
Coffee Break	
e-Beam	<u>Stephane Lucas</u> – Chief Innovation Officer Ion Beam Applications (IBA)
Discussions & Questions on PFAS destruction technologies	
Wrap-up / Summary	Sara Tejedor Sanz Scientific Officer – JRC B5
Workshop closure	
Disruptive Tech monitoring with sensors in water	
	<u>Vincent Bouchiat (online)</u> – CEO and Co-founder Grapheal

未だに 3 物質の濃度(50ng/L)にこだわる幼稚な国内議論から脱却し、PFAS 環境負荷量(絶対量の算出)と、環境修復と放置リスクのコスト比較が議論の中心である欧州 PFAS 規制案を理解しなければ、欧州向け輸出の継続は不可能です。

b) コンソーシアム会員企業及び「Perfluoro AD+」「Smoldering」開発者との個別相談会（東京ビッグサイト会議室、チケット制、事前予約必要）

c) 16 日 CAR-PFAS 国際ラウンドテーブル 第一部

時間 13:00～16:00

セミナータイトル『日本は PFAS 対策の失われた 15 年を取り戻せるか?』

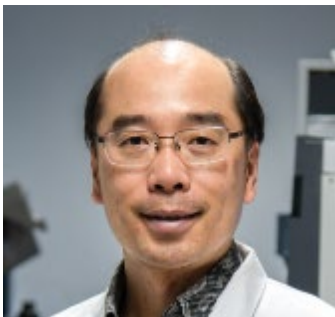
セミナー要旨

2024 年に開催された地盤技術フォーラムは、国内 PFAS 問題が「リスク評価 only」から「PFAS 環境修復技術の開発と普及」に大きく舵取りする契機となった。それから 2 年後の地盤技術フォーラム 2026 では、遅まきながら国内企業でも開発されている様々な PFAS 対策技術が紹介される。本セミナーではダイオキシン国際会議（イタリア）とオンラインで中継し、世界最先端の PFAS 対策技術の紹介を行う。2018 年から 4 回行った「欧州 PFAS 対策技術現地見学会」に参加した中心企業には既に周知されているが、「PerfluoroAD+」や「Smoldering」等、PFAS 対策の世界標準技術と比較し「会場で紹介されている技術に国際競争力があるかどうか」自身の目で確認してもらいたい。また日本が PFAS 対策の失われた 15 年を乗り越えて、PFAS 管理標準技術を世界に提案するチャンスである「SMART-PFAS」や「Eight Days of PFAS +one : CAR-PFAS つくば会議(9 月 19 日-24 日)」についても紹介する。



● 講演時間	13:00～13:30
● 講演者①	山下信義
● 所属	PFAS 対策技術コンソーシアム/産業技術総合研究所
● 講演タイトル	SMART-PFAS とは何か? (トヨタ自動車/CAR-PFAS 協業プロジェクトについて)
● 講演内容	日本を置き去りにして世界中で急速に進行している PFAS 国際規制は昨今の国際情勢とも連動し、世界のサーキュラーエコノミーの再構築に繋がっている。特に円安とも合わせて日本の「買い負け」の原

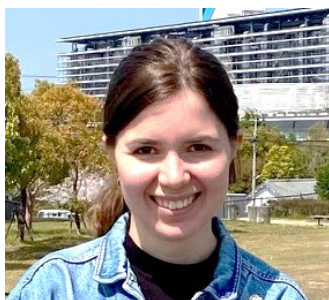
	因でもある。本講演では、欧州 PFAS 規制の基本コンセプトであるにもかかわらず、日本人はだれも理解していない「SMART-PFAS: Science-based Management, Assessment and Remediation Technologies for PFAS」について概説する。 また 6 月 18 日に開始した、トヨタ自動車株式会社 (TOYOTA) と PFAS 対策技術コンソーシアム (CAR-PFAS Japan) の協業プロジェクトである、クラウド型人工知能解析プラットフォーム「PFAS-AI/WAVEBASE」についても紹介する。
--	--



●講演時間	13:30～14:00
●講演者②	Leo Yueng
●所属	エーレブルー大学(スウェーデン)
●講演タイトル	欧州 SMART-PFAS/COAST-PFAS プロジェクトについて
●講演内容	科学に裏付けられた世界中の発生源管理と完全分解技術無しでは PFAS 問題は解決できない。それぞれ COAST-PFAS、SMART-PFASとして開始された欧州産学官横断巨大プロジェクトを紹介する。日本と欧州の協力により 21 世紀の「成長の限界」に挑む。欧州 3 億円プレイヤー。2027 年 2 月に予定する「第 5 回欧州 PFAS 対策技術現地見学会」のホストでもある。



●講演時間	14:00～14:30
●講演者③	Roland Weber
●所属	ストックホルム条約コンサルタント
●講演タイトル	廃棄物中 PFAS の完全分解は可能か？
●講演内容	PFAS の熱分解技術はキルン式焼却技術を基本として普及が進められているが、焼却で生成する CF₄/TFA 等、PFAS 分解が温暖化/有害物質を生成する事が懸念されている。日本国内焼却設備老朽化に足を引っ張られている PFAS 焼却処理の効率/コスト/環境安全性評価についても俯瞰する。 2027 年 2 月に予定する「第 5 回欧州 PFAS 対策技術現地見学会」のホストでもある。



●講演時間	14:30～15:00
●講演者④	Welmoed Nauta
●所属	エーレブルー大学(スウェーデン)
●講演タイトル	土壌中 PFAS 挙動の物理化学的理解と応用
●講演内容	PFAS 対策技術を正しく使用するためには現象を支配する物理化学的原理の理解が必須であり、日本で開発されている科学原理の不確かな技術の欧州展開は現状では不可能に近い。様々な物理化学的定数を用いて土壌中 PFAS 挙動の現象理

	解を深め、処理技術への応用や効率評価を可能にした。
--	---------------------------



●講演時間	15:00～15:30
●講演者⑤	Martin Cornelsen
●所属	Cornelsen Groupe (ドイツ)
●講演タイトル	Perfluoro AD+ を用いた高効率/低コスト PFAS 処理技術について
●講演内容	「PerfluoroAD+」はドイツ消防署のほとんどの納品され、火災に伴う PFAS の環境流出を未然に防ぐ最も安価で効率的な欧州標準技術である。 特に、日本国内の消火設備に数十万トン以上残存している PFAS を含む泡消火剤(AFFF)の安全処理に速やかに対応可能である。水溶性のイオン交換メカニズムである本技術の解説と日本導入についても現地商談会を予定する。 会員向けオンライン商談会も開催中。



●講演時間	15:30～16:00
●講演者⑥	Dipa Lalwani
●所属	産業技術総合研究所
●講演タイトル	インドにおける PFAS 問題と対策技術

●講演内容	グローバルサウスでは既に PFAS フリーの消火施設の設置が国際協力の下で進んでおり、PFAS 問題対応は新たな都市計画の基本要件となっている。CAR-PFAS 会員限定データベースに公開予定の「インドにおける PFAS 問題と対策技術レポート」を紹介する。
-------	---

17 日 CAR-PFAS 国際ラウンドテーブル 第二部

時間 10:30～12:30



●講演時間	10:30～11:00
●講演者①	谷保佐知
●所属	産業技術総合研究所
●講演タイトル	PFAS 分析技術の最新動向と「PFAS Total Solutions」 － 総 PFAS 測定と PFAS 対応支援
●講演内容	産業界における持続的な PFAS 対応を促進し、PFAS 課題の解決と環境保全に貢献するために 2026 年に設立した「PFAS Total Solutions」の紹介を行う。また、環境研究総合推進費(5-2401)「環境中 PFAS の包括的評価を目指した総 PFAS スクリーニング測定技術の開発」の研究成果発表と「Eight Days of PFAS」イベントでの現地ラボツアーも予定する。



●講演時間	11:00～11:30
●講演者②	Tarek Rashwan
●所属	ノッティンガム大学
●講演タイトル	Smoldering 技術を用いた PFAS の完全熱分解技術
●講演内容	PFAS の焼却分解は GenX 等新たな有害物質の二次生成が懸念されており、技術普及の課題となっている。日本国内の PFAS 処理技術実証試験では PFOS/PFOA/PFHxS しか処理対象ではなく、処理後の有害物質の二次生成も全く評価されていないが、Smoldering 技術を用いる事で二酸化炭素/水/フッ化カルシウムしか生成しない PFAS 完全熱分解技術が可能である。CAR-PFAS と協力しオンサイト技術デモと現地商談会も予定する。 会員向けオンライン商談会も開催中。

その他

●講演時間	11:30～12:00
●講演者③	PFAS 対策事業者
●所属	
●講演タイトル	国内 PFAS 対策最新技術の紹介
●講演内容	数件の国内事業者の PFAS 対策技術紹介を行う。

2) CAR-PFAS つくば会議

9 月 19 日から 23 日、つくば市国際会議場他

・SETAC-AP と同一会場で同時開催

<https://www.setac.org/discover-events/global-meetings/setac-asia-pacific-15th-biennial-meeting.html>

各プログラム

a) 国内外 PFAS 専門家との個別相談会(主に 19 日から 21 日の間、事前申し込み必要・チケット制) 本ページ「Eight Days of PFAS in Japan + one」に掲載している専門家は全て個別相談会の対象です。最終的に 30 名前後の海外専門家との個別相談が可能です。順次アップデート予定。

b) 22 日、23 日 つくば市 PFAS 専門機関 バスツアー (事前申し込み必要・チケット制) 産総研に新たに設置された「PFAS Total Solutions」他、つくば市 PFAS 専門機関へのバスツアーを行います。(期間中 5 回程度、国際会議場と研究機関の間を貸し切りバスで送迎します)。「Perfluoro AD+」「Smoldering」他の PFAS 処理技術の現地デモンストレーション、説明会を予定します。

3) + one (CAR-PFAS VIP 東京会議)、9 月 24 日、東京都昭島(栗田工業イノベーションハブ) CAR-PFAS 会員のみ VIP 限定ラウンドテーブルを行います。「Eight Days of PFAS in Japan + one」に参加する国外の PFAS 専門家 20 人前後とのラウンドテーブルにより「世界最新技術の紹介」と「国内 PFAS 対策技術底上げのための情報提供・意見交換」を行い、事前調整にもよりますが海外技術導入の商談会/NDA 締結も可能です。

上記プログラム掲載以外の来日専門家の一例を下記に紹介します。全て個別相談会の対象です。

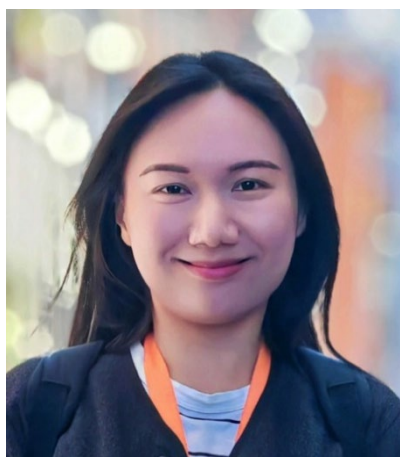


●氏名	Lutz Ahrens
●所属	スウェーデン農業科学大学 (SLU)
●BIOS	PFAS-FREE (Formas), PFAS-PURE (VINNOVA), and SIDWater

	(Formas), EU LIFE SOuRCE など、欧州 PFAS プロジェクトリーダーを歴任し、欧州における PFAS 対策技術の実質的リーダーであるだけでなく、軍基地からの AFFF 汚染訴訟の証人としてウプサラ市における PFAS 行政を正常化するなど、科学にとどまらない活動を行い、スウェーデン国王より感謝状を授与されている。現在 European Partnership for the Assessment of Risks from Chemicals (PARC)において欧州全域における有害物質フリー都市計画である NonHazCity プロジェクトを進めている。
--	--



●氏名	Jeong-Eun Oh
●所属	Pusan National University, Korea
●BIOS	PFAS Crisis in 2018 (Korea) の専門家であり、韓国 PFAS 問題をその始まりから研究するだけでなく、医薬品汚染も含めた広い意味での化学汚染の一部として PFAS 問題に対する理解を深めている。韓国 PFAS Task force のメンバーであり、PFAS 対策技術コンソーシアムと協力して日本と韓国の間の国際連携にも大きく貢献している。特に現在調整している日/韓の PFAS 産業界ラウンドテーブルのチェアの一人でもある。



●氏名	Yuefei Ruan
●所属	City University of Hong Kong (CityU)
●BIOS	2000 年代初期、産総研と CityU との国際共同研究の立ち上げから PFAS 研究を開始、有害化学物質のバイオモニタリングを中国沿岸域を中心に研究している。ダイオキシン、医薬品、BFR、内分泌かく乱物質等、数多くの POPs の中で PFAS が占める総合的リスク評価研究で著名であり、CAR-PFAS 会員限定データベースの「PFAS in China レポート」の執筆者の一人である。最先端 PFAS 対策研究の日本と中国の橋渡しに大きく貢献している。

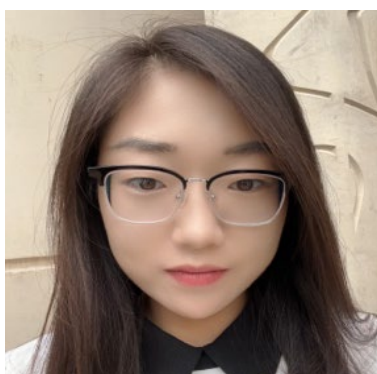


●氏名	Felicia Fredriksson
●所属	エーレブルー大学（スウェーデン）
●BIOS	日本国内の PFAS 処理技術実証試験では PFOS/PFOA/PFHxS しか処理対象ではなく、処理後の有害物質の二次生成も全く評価されていないが、PFAS 対策技術を正しく使用するためには現象を支配する物理化学的原理の理解が必須である。欧米ではアインシュタインレベルの基礎科学現象理解なしでは博士号取得は不

	可能であるが、日本では応用技術者しか育たない土壤に対するアンチテーゼとして、基礎的な物理学的定数の理解が PFAS の分解処理反応の理解にどれほど重要か、実験科学的手法により証明する。欧州 1 億円プレイヤー。
--	---



●氏名	Zicheng Su
●所属	University of Queensland (オーストラリア)
●BIOS	PFAS 汚染対策、高分子吸着材料、廃水処理工学、技術実装の専門家。磁性高分子吸着剤、新規界面活性材料、PFAS 吸着膜、泡沫分離を利用した PFAS 捕集技術を中心に、バイオソリッド、埋立地浸出水、産業廃水など複雑なマトリックスから PFAS を除去・濃縮する実用的な処理技術を紹介する。CSIRO ON Prime 15 プログラムを通じて産業界との連携を進めており、20 社以上の国内外パートナーとの協業を進めている。9 月 24 日の CAR-PFAS VIP ラウンドテーブルでは CAR-PFAS 国内会員企業との国際協力・協業についても検討したい。



●氏名	Zhuojing Yang
-----	---------------

●所属	University of Queensland (オーストラリア)
●BIOS	PFASTotal 処理に対応するため、高分子材料設計、吸着評価、再生研究、環境水処理性能評価を組み合わせ、PFAS 結合化学と、現実的な処理条件下で動作する実用的な吸着剤システムとの理論的ギャップを追求している。 特に、ポリマー組成、イオン交換機能、疎水性相互作用、材料構造が PFAS の取り込み、再利用性、環境修復技術性能にどのように影響するか、PFAS を効率的に除去するだけでなく、回収された PFAS の再生や下流管理を支援する再利用可能な材料の開発を目指す。9 月 24 日の CAR-PFAS VIP ラウンドテーブルでは CAR-PFAS 国内会員企業との国際協力・協業についても検討したい。

その他 30 名前後の国外 PFAS 専門家との個別相談会、講演会への参加が可能です。下記セッション参加者は全て個別相談会の対象です。

Session: 2.02 – Advances in Environmental Chemistry for Quantitative Exposure Assessment and Risk-Informed Management of PFAS and Emerging Contaminants

Session: 3.07 – PFAS Treatment and Remediation: Linking Environmental Behavior to Sustainable Solutions